

# 令和6年度東京都立大泉特別支援学校 学校経営報告

東京都立大泉特別支援学校長 花田妙子

## 1 今年度の取組と自己評価

### (1) 教育活動への取組と自己評価

今年度の教育活動については概ね計画どおり進めることができた。

教育課程については中学部・高等部の知的障害を併せ有する生徒の教育課程において教科の見直しを図り「理科」と「社会」の教科を設定した。教科の授業で取り扱う内容と教科・領域等を合わせた指導の中で取り扱う内容に整理して、生徒にとってわかりやすい学習となるよう見直した。小学部は時間割の見直しを行った。

医療的ケアの安全な実施と推進については、就学前からの児童観察と学校医検診に取り組み保護者の付き添い待機期間解消につなげることができた。また医療的ケア専用通学車両の運行は走行ルートを入学期から検討することで医療的ケアの校内立ち上げから大きく期間をあけることなく乗車につなぐことができた。

大泉祭は4年ぶりに来客者の人数制限を解除したが大きな混乱なく開催することができた。読書活動は図書委員会を中心に地域図書館と連携し展開することができた。グローバル人材育成に関する取り組みの推進では今年度初めて「GLOBAL GATEWAY WEEK」を設定し外国の言語や文化、日本の伝統文化に触れる機会を設定した。給食メニューや図書館との連携に至るまで教育活動全体を通して推進することができた。

改築工事に伴う校舎移転に向けては今年度もスクールバスのコースの見直しを継続して行っている。令和7年度から1コース増設して11コースとなる。次年度も増車を検討し、乗車時間がおおむね60分を超えないようなルートを作成し安全な登下校の環境を整備していく。

### (2) 重点目標への取組と自己評価

※数値目標についての評価

A100%達成      B 達成度 80%以上      C 達成度 50%から 80%未満      D 達成度 50%未満

#### 【1】 個々の障害に応じた専門性の高い指導技術と根拠に基づいた教育の推進

- 指定研究と関連付けながら研究活動のテーマを「児童・生徒の学びを支えるデジタル教科書・デジタル教材・ICT 機器等を活用した授業の改善～自立活動の視点を生かして～」と設定し、自立活動の視点を生かしたデジタル教科書・デジタル教材・ICT 機器を活用した授業改善に取り組んだ。今年度は昨年度の研究をさらに深めて授業研究を実施した。外部講師を招聘して授業改善に取り組んだ。
- すべての教員が1回以上の研究授業協議会への参加に取り組んだ。若手教員及び中堅教員の研修対象者を中心に研究授業を実施し相互に学びあう機会を設定することができた。他校の研究発表会や指導教諭の授業に参加し、様々な指導法について専門性を高める機会をもつことができた。
- 図書委員会を中心に地域の図書館と連携し読書活動に取り組むことができた。校内読書週間を設定し貸し出し冊数に応じて児童・生徒の表彰に取り組んだ。
- 12月にGLOBAL GATEWAY WEEK を実施し、図書活動や給食を含む教育活動全体を通して外国語や外国の文化、日本の伝統文化に触れる機会を展開した。
- 外部専門家の効果的な活用については外部専門員の専門性を活かし授業改善や自立活動の充実につなげることができた。一方で効果的に外部専門家を活用する点においては整理する課題もある。自立活動の取り組みについて教職員がさらに意識をさらに高め、教育活動全体における指導の工夫改善により「個に応じた指導」の充実を図っていく。
- 健康づくり、健康教育、医療的ケアは教員・学校介護職員・学校看護師が多職種連携・協働し、安全に実施することができた。新規医療的ケア立ち上げの児童・生徒の保護者待機短縮化については就学前からの観察や検診に取り組んだことで一定の効果があった。

<数値目標>

- デジタル教科書、デジタル教材、ICT 機器を活用した授業の取り組み【全教員 1 回以上】 A
- 研究授業における授業観察【全教員年 1 回以上】 A
- 図書だよりの発行【年 2 回以上】 4回 A
- 生活指導部による通信の発行【年 2 回以上】 2回 A
- GLOBAL GATEWAY WEEK の設定【年 1 回】 1回 A
- 人権教育・安全教育・防災教育に関する研修の実施【年 5 回以上】 5回以上 A
- キャリア教育・職業教育に関する研修の実施【年 3 回以上】 2回実施 C
- 校外での研修会、他校の授業見学等への参加【述べ 20 回以上】 42回 A

## 【2】 センターの機能の充実・強化の推進

- ・練馬区と西東京市の教育委員会と連携し副籍制度の活動活性化に取り組んだ。
- ・学校間交流は計画に沿って実施できた。小中学校の交流校へは今年度も出前授業を実施し障害の理解啓発に取り組むことができた。
- ・支援部を中心に生活支援関連機関及び進路先、福祉事務所等との連携に取り組むことができた。
- ・練馬区歯科医師会と連携した摂食指導は計画通り実施できた。
- ・「都立学校活用促進モデル事業」では積極的な施設開放に取り組んだ。
- ・学校広報活動はホームページ及びX（旧ツイッター）を活用し積極的な発信に努めた。

〈数値目標〉

- 練馬区立小中一貫教育校大泉桜学園との学校間交流【交流年 8 回以上】 8回以上 A
- 東京都立大泉桜高等学校・埼玉県立新座総合技術高等学校との連携強化【交流年 2 回以上】 2回 A
- 支援部による通信の発行【年 2 回以上】 2回 A
- 大学等の教育機関との連携（学生の受け入れ等）【年 10 回以上】 10回以上 A
- 感染予防対策を徹底した学校公開の実施【年 2 回以上】 2回実施 A
- 進路先施設等との連携・訪問【年間 30 回以上】 30回以上 A
- ホームページ更新【年間合計 80 回以上】 118回 A
- SNS 発信の回数【年間合計 50 回以上】 107回 A

## 【3】 都民に信頼される学校づくりの推進

- ・年間3回の「お悩みアンケート」を実施し児童・生徒のSOS発信に積極的に対応するとともに学校サポートチームで共有した。
- ・ミドルリーダーを活用した組織的な学校運営を展開した。
- ・経営企画室は経営企画室長を中心に効率的な業務の推進に取り組んだ。
- ・個人情報取り扱いについては取扱う担当者を決めることで事故の未然防止に取り組んだ。
- ・災害対策では生活指導部を中心に備蓄物品の入れ替えや地域と共同の防災研修に取り組んだ。年間を通した避難訓練では隣接する学校校庭への避難訓練を実施した。
- ・省エネ委員会を中心に年間を通して意識することで電気・ガス・水道の使用量は昨年度と比較して大きな差が出ていない結果となった。

〈数値目標〉

- 人権・体罰・自殺防止等、サービス事故防止研修の実施【年 6 回以上】 6回以上 A
- 体罰・いじめに関する調査【年 3 回以上】 3回 A
- 地域と連携した防災訓練の実施【年 1 回以上】 1回 A
- サービス事故の根絶【サービス事故ゼロ】 ゼロ A
- 個人情報取扱いに関する事故の未然防止【個人情報の取り扱いに関する事故ゼロ】 ゼロ A
- 経営企画室と連携した就学奨励費・サービス等に関連させた研修の実施【年 1 回以上】 1回 A
- センター契約執行率の促進【目標 70%以上】 65% B
- 就学奨励費に係る事務の無事故の推進【事故ゼロ】 ゼロ A
- 経営企画室職員の研究授業見学【全員 1 回以上】 全員 A
- 学校評価アンケートの保護者回答率の向上【75%以上】 80% A

## 【4】 教育環境の整備の推進

- ・ICT 支援員を活用し情報教育部を中心に ICT 機器の管理と通信環境の安定した提供に取り組んだ。
- ・保護者連絡ツールを導入し、学校からの配信をおおむねペーパーレス化することができた。

欠席連絡も保護者から活用されている。

- 仮校舎へに移転を見据えて粗大ごみの計画的な廃棄に取り組んだ。
- 年度末に停電トラブルにより臨時休校を二日間実施した。修了式はオンラインでの実施となった。定期的な点検では未然防止が困難なトラブル対応については今後も経営企画室を中心に関係諸部署と連携し学校活動の安全な運営再開に取り組んでいく。

### 【5】「働き方改革推進プラン」等に基づくライフ・ワーク・バランス実現の推進

- 教科等領域部会を3部会に編成し業務の効率化に取り組んだ。
- 副校長マネジメント支援員を活用し日常の副校長業務について効率化と業務負担軽減に取り組むことができた。
- スクールバス安全運行支援員、都立学校車両運行管理業務支援員を活用し安全なバス、車両運行業務を効率的に展開できた。
- ICT支援員の専門性はICT環境の充実に加えて教員の授業づくりにおいても活用することができた。

〈数値目標〉

- 職員健康診断・人間ドックの受診率の向上【受診率 100%】100%A
- 産業医による職場巡回【毎月1回以上】毎月1回実施A
- 勤務時間外在校時間月45時間以上の教員【年間平均 教員の15%以内】平均14.5%A
- 定時退庁ウィーク年2回設定【ウィーク中の定時退庁者90%以上】92%A
- 校内安全（清掃・美化）点検の実施、職員室内の整理整頓、クリーンデスク【月1回以上】毎月1回実施A

## 2 次年度以降の課題と対応策

（令和6年度学校運営連絡協議会による学校評価結果分析と次年度への提言から）

今年度の学校運営において特に評価される取組として次の7項目があげられた。

- 進路情報の提供について適切な情報の提供がなされたこと
- 本校支援部とPTAとの共催により進路学習会を実施することができたこと
- 昨年度に比べ、副籍及び学校間交流を積極的に実施することができたこと
- 医療的ケア実施において、段階的に保護者の付き添いを解消したこと
- PTAと協力し、PTA夏祭りを実施することができたこと
- 保護者の学校評価アンケートの回収率（80%）が向上したこと
- Classiによる情報発信の活用

学校運営連絡協議会評価委員会による学校評価アンケート結果の分析と考察から以下の内容について一層の充実を図っていく。

- (1) ICT 機器活用のための環境設定と更なる学習環境の整備・拡充、情報発信（お便り等）情報教育部を中心にICT支援員を活用しデジタル機器、ICT支援機器活用の充実に取り組んでいく。活用の状況は学校便りで積極的に紹介していく。
- (2) 進路情報について情報提供の継続と最新情報の発信の工夫と充実支援部を中心に定期的な進路便りの発行を今後も継続し情報発信を拡充していく。
- (3) 教育活動の情報提供において様々な方法での広報活動の検討と改善学習の様子や読書活動、給食、学校行事、防災の取組みなど、すべての教育活動について一層の広報活動に取り組み開かれた学校づくりに取り組む。
- (4) 医療的ケア保護者待機の早期解消の更なる推進と全ての関係医療機関との連携の充実入学後の円滑な医療的ケアの実施と保護者待機の早期解消に向けて保健部を中心に多職種連携を一層充実させて取り組む。
- (5) 教職員一人一人がより自らの働き方を意識できる働き方改革の実施学校閉庁日や定時退庁ウィークの設定、時間を意識できるチャイムの活用に取り組み、メリハリのある業務遂行を教職員が意識できる働き方改革に取り組む。分掌業務や学級事務業務は会計年度職員の活用を一層図ることで効率的な学校運営を展開し、チーム学校が一丸となりライフ・ワーク・バランスを図ることを促していく。